

会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
会議名 (審議会等名)	令和元年度 第1回嬉野市の国民健康保険事業の運営に関する協議会		
開催日時	令和元年8月22日(水) 14:00～15:40		
開催場所	嬉野市役所 塩田保健センター 2階会議室		
傍聴の可否	㊦ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	犬尾委員、古河委員、坂口委員、樋口委員、 谷口委員、栗山委員、森田委員、藤山委員、 藤田委員、蒲原委員	
	事務局	市長、市民福祉部長、健康づくり課長 同課副課長、同課主任、同課主事	
	その他		
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	第1回嬉野市の国民健康保険事業の運営に関する協議会資料		
審議等の内容	別紙のとおり		

審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	健康づくり課
議 題	第1号 平成30年度嬉野市国民健康保険事業の状況について（報告） 第2号 平成30年度嬉野市国民健康保険決算の状況（報告） 第3号 その他		
内 容			
審議経過	<p>市長 (委嘱状交付) 4月1日付瀬戸口委員から森田委員に委員交代したことによるもの。</p> <p>市長 (市長あいさつ)</p> <p>会長 (会長あいさつ)</p> <p>事務局 (会議成立の報告)</p> <p>会長 (会議録署名委員の選任) 署名委員を保険医代表として樋口委員、被保険者代表を蒲原委員に選任してよいでしょうか。</p> <p>《異議なし》</p> <p>事務局 議題第1号「平成30年度の嬉野市国民健康保険事業の状況について」説明 (国保加入状況) 国保加入数は、年々減少傾向が続いていまして、平成30年度平均世帯数は3,640世帯、平均の被保険者数は6,168名です。</p> <p>(税率及び収納状況について資料より説明) 平成30年度の税率は、前年からの変更ありませんでした。30年度以降の同税率は県より示される当市の標準保険税率を参考に、当協議会でご審議いただいております。30年度の税率は据え置きとす るご答申をいただいております。</p>		

審議経過	事務局	<p>税率の変更点は、30年度の課税限度額医療分が4万円の増となり、全体の賦課限度額が93万円となった点です。</p> <p>本年度の収納率は94.34%で前年度と比べ0.84ポイントの増です。滞納繰越分では、収納率が17.36%で前年度と比較して、0.59ポイントの減です。滞納繰越分と現年度分の合計では収納率が77.60%、前年度比が1.17ポイントの増です。</p>
	事務局	<p>(国保の保健事業)</p> <p>国保人間ドック・脳ドック事業について。これは国保の方の30歳から65歳までの方の中で5歳刻みの対象者に対して実施をしている事業です。若年者の受診が少ない状況です。</p>
	事務局	<p>(特定健診事業)</p> <p>個別健診は、6月1日から8月31日まで行い、未受診者健診として10月15日から31日まで追加で実施しました。集団健診は5回行っていきます。対象者は、4,248人、そのうち1,891名の方に受診していただき、受診率は速報値で、44.5%です。年々受診率は増えています。</p>
	委員	<p>受診率を上げたいということですが、受診についての追跡調査などはされていますか。声掛けをなどの取組をして、はじめて受診率があがってくるのではないのでしょうか。</p>
	事務局	<p>受診率の向上については毎年重要視しています。分析して地区別の受診率状況なども出しています。毎年8月末で特定健診の個別受診期間が終わるのですが、その時点で受けていない方をリスト化しています。ほかにも3年連続で受けていない方には直接電話したり、保健師が訪問したりしています。それでもなかなか受診にこぎつけられないというケースもありますので新事業として専門の業者に委託して新たな未受診者勧奨事業を計画しています。</p>
	委員	<p>収納率は全国平均でいうとどのような状況ですか</p>
	事務局	<p>佐賀県は全国的にいうと収納率が上位、上から何番目ということになります。嬉野市の佐賀県内での状況を見ますと上が約97%で当市が94%と、下から2番目になりますので低いほうですが、全国的には高い位置にあると思います。</p>
	委員	<p>この94%というのはどのような感覚でみたらいいのでしょうか</p>

審議経過	委員	か。100%というわけにはいかないでしょうが。国家予算のうち医療費の占める割合が多い現状がある中で、国保税を納めない人がいることが問題となっていると思います。
	事務局	8年後に県内の税率が一本化します。そうすると佐賀県の会計が一本になって運営されます。収納率が現在高い市町にとっては、平均収納率を超えた分を低い市町へ、相互扶助ということで援助する形になりますので、なるべく同じ基準まで引き上げて格差のない状態で一本化する方針がありますので県から収納率を上げるよう要請が 있습니다。
	事務局	県全体の最新平均収納率は96.04%です。高い水準の中で取組んでいかなければなりません。佐賀県内で高い水準の市町では差押え等の処分を積極的にやっています。嬉野市もそうしなければいけないという議論をしているところですが、一方で低所得者への配慮や、そういった方を福祉につなげることも並行してやっていなければいけませんので、配慮しながら進めていくということです。
	事務局	<p>議題第2号</p> <p>「嬉野市国民健康保険決算の状況について」説明</p> <p>30年度から国民健康保険事業の県広域化により大きく制度が変わっています。これまで嬉野市だけで保険税を集めて、国、県の公費を受入れて、それに伴う医療費を支払うという制度になっていたものが、30年度については各市町の医療費に係わるころはすべて県が一旦支払い、嬉野市は保険税を財源に、規模に応じた負担金が割り当てられるようになりましたので、市はそれを納付金として支払うということになりました。これにより決算表も大きく変わっています。</p> <p>国民健康保険税全体の歳入に占める割合は、わずか17.9%となっておりまして、歳入のほとんどが県からの交付金で賄われているという状況です。</p> <p>歳出につきましては、保険給付費、高額療養費、療養給付費等含めて保険給付の支払いが69.7%を占めているということで、今後税の収納率を上げるという目標で歳入を増やししながら、県への納付金の負担額を下げるため、なるべく保険給付費、医療費が増加しないように、更なる医療費適正化のため、保健事業等の取り組みが必要になると思っています。</p> <p>国民健康保険税の決算総額は前年度より減額になっております。収納率は上がっていますが、退職被保険者の減少などにより、国保</p>

	<p>税を課税して受け入れる調定額の金額自体が減少しているということもございまして、収入額が減少している状況となっております。繰入金は、30年度からの県広域化に伴う累積赤字解消のため、29年度は一般会計からの赤字補てんとして250,000,000円を繰入しましたが、今年度はこの分の一般会計繰入金が減額です。また繰越金につきましては29年度国保会計からの繰り越し分を68,554,000円計上しています。このうち昨年度の決算確定後に一旦全額基金に積立を行いました、うち39,441,000円は繰入金のうち保険給付費基金繰入金になりますが、過年度の国庫の償還金の財源として再度国保会計に繰り入れ、その支払いに充てています。残額29,113,000円につきましては、そのまま基金に残り31年度に繰り越されています。</p>
会長	<p>議題のその他について事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>議題3号 その他 「平成31年度嬉野市特定健康診査未受診者勧奨事業業務委託について」説明 当事業は、特定健診の受診率向上を目的として国の交付金を活用し実施する事業となります。これまで特定健診の未受診者に対して一斉に同一の勧奨はがきを送付しておりました。今回の委託により未受診者の状況をマーケティングのプロが詳細に分析し、対象者に対し適切な通知の送付などのアプローチを行い、受診率向上を図る目的でおこなっています (平成30年度の『特定健診受けてトクするキャンペーン』の結果報告および『嬉野市健康ポイント事業』について説明) (平成31年度の嬉野市健康マイレージ事業について説明)</p>
会長	<p>新たな取り組みについて説明いただきました。個別健診の再勧奨通知にこれまでにない調査方法を用いるということで、結果をおおいに楽しみにしています。委員の皆様にもご協力をいただくことがあると思いますがよろしくお願いします。</p>
事務局	<p>議題(3)『今後のスケジュールについて』説明 (閉会)</p>